

禪が伝えたお茶の話



画：正親里紗

第5回

栄西禅師と明恵上人 — 梅尾茶と宇治茶

館 隆 志

お茶の名産地と言えば？ 静岡出身の私としては、もちろん「静岡」と推したいところですが、今回は話の展開の都合上、宇治のお話を致します。宇治にいつから茶園があったのかはわかりませんが、文献からは、少なくとも南北朝時代には宇治はお茶の産地として知られた場所になっています。

しかし、現在でこそトップブランドの一つとしての地位を確立している宇治茶ですが、南北朝期には「我が朝（産茶の）名山は、梅尾を以て第一と為す」（『異制庭訓往来』）と言われるほどの、宇治を上回るブランドのお茶が梅尾にあったのです。鎌倉末期から南北朝期にかけて、茶の産地を当てる遊び「闘茶」が流行りましたが、その際、梅尾茶を「本茶」とし、宇治や醍醐の茶は「非茶」とされたほどでした。

梅尾は京都市の中心から、北西に山中を入っていく場所にあります。妙心寺からは車で十五分ほど走った場所になるでしょう。その静かな緑豊かな山中には、明恵上人が鎌倉

時代に再興した高山寺こうざんじというお寺があります。高山寺は現在も観光でも知られた場所です。から訪れたことがある方も多いと思います。また、国宝「鳥獸戯画ちようじくぎが」を所蔵していることで有名ですから、ご存じの方も多いのではないでしょうか？

明恵上人は、鎌倉時代に活躍した華嚴宗の高僧で、法然上人の『選撰本願念仏集せんせんほんねんぶつしゅう』の反論書を執筆しています。明恵上人は、生涯釈尊を敬慕し続け、多くの人から尊崇された人であり、四十年にも及ぶ夢の記録『明恵上人夢記めいゑのま』を残したことも知られています。

しかし、明恵上人を一般的に広く知らしめているのが、茶と明恵上人との関係ではないかと思えます。明恵上人の伝記史料はいくつかあるのですが、このうち、鎌倉時代末期の成立と推定されている興福寺藏本『梶尾明恵上人伝記』(一四五六年識語)には、

建仁寺長老〔の榮西〕が〔明恵上人に〕茶を勧めたところ、〔明恵上人は〕「医師に質問したら、茶葉は大いに疲れを晴らし、食

欲を消して、心地よくする徳がある。しかも、日本では広がつていない旨を申した」と言われ、「茶の実を」競い尋ねて奔走し二・三本を植えられた。本当に眠気を醒ます効能があったので、徹底的に衆僧に飲ませて重んじた。ある人が語つて言うには、「建仁寺の〔榮西〕僧正が、唐より持つて帰つてきた茶の実を、〔明恵に〕進呈したものを植えた」とのことです。

という話が伝えられています。すなわち、明恵上人が高山寺に植えたお茶は、榮西禪師が中国から持ち帰つた茶の実であつたとの説が記されているのです。ちなみに、この伝記史料では、明恵上人が榮西禪師に参じて弟子となり印可を受けたことが記されています。

この榮西禪師と明恵上人にまつわる茶の話は、直接の弟子が記した伝記には収録されていませんし、榮西禪師の伝記にも記載されていないので、直ちに史実とは認めづらい状況です。

一方、明恵上人の書状には「茶」の話が出

ています。また鎌倉時代後期には梅尾の茶が鎌倉でも知られ、しかも入手困難な貴重なものであったことが『金沢文庫古文書』に収録された書状などによって確認できます。栄西禅師と明恵上人にまつわる茶の話が史実であったのかは、今となつてはよく分かりませんが、しかし、少なくとも、すでに有名であった梅尾茶は、明恵上人や栄西禅師の話が付加されることで、当時その価値をより増したであろうとは想像できます。

天龍寺開山の夢窓疎石禅師は、『夢中間答』(二二三四年刊)の中で、「我が朝の梅尾の上人、建仁の開山、茶を愛し玉ひけるは、蒙を散じねぶりをさまして、道行の資となし玉はんためなりき」と述べています。この記事からは、鎌倉時代末期から南北朝時代のころ、茶と言えば明恵上人と栄西禅師ということが、広く知られていたであろうことが示唆されているのです。

いずれにしても、栄西禅師と明恵上人、二人の高僧と茶をめぐる話は、その後も伝え続

けられていき、多くの史料にそのことが記されました。しかし、梅尾茶はいつしか記録に名前がみられなくなり、かわつて、「宇治は当代近來の御賞翫」(『尺素往來』)と言われるほど、宇治茶は名声を得ていきました。宇治茶にも明恵上人を由縁とする伝承が伝えられています。

宇治茶における明恵上人の伝承はずいぶんと後世のものなのですが、宇治で最も古い禅師は道元禅師の建てた興聖寺ですから、場合によっては、宇治で最も古い茶の栽培は、道元禅師による興聖寺の周辺であったという可能性もあるわけです。静岡の茶も、禅僧(円爾禅師・南浦禅師)との関わりが伝承されているように、茶の名産地もまた、禅と深いつながりがあるのです。

館隆志(たちりゅうし)

一九七八年静岡県沼津市生まれ。二〇〇九年駒澤大学大学院博士課程修了、博士(仏教学)。駒澤大学専任講師・花園大学国際禅学研究所客員研究員。著書に『園城寺公胤の研究』(春秋社)、『蘭溪道隆禅師全集』第一巻(共編、思文閣出版)。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

*ㄆ切りは毎月1日です。

『花園』へのご意見・ご感想など

本誌へのご意見・ご感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園 係

*住所、氏名を必ずお書きください。

*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

*なお投稿はお返しいたしません。

花園
hanazono

「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花園】第70巻 第8号(通巻第828号)
令和2年8月1日発行(毎月1日発行)
定価55円

【発行人】栗原正雄

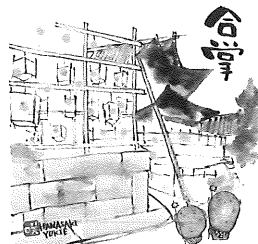
【編集人】石田信行

【印刷人】喜田眞司

【発行所】京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替 / 01060-9-1400
電話 / 075-463-3121

表紙の絵

「合掌」



合掌をすると、なんだか心が温かくなる。
感謝の心が溢れてくる。

絵・花咲幸絵

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,560円(税・送料込)です。
下記のお電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。